

【チャレンジ問題②】 解答

話し言葉と書き言葉く吾輩は猫であるく

五年 組 番 名前

問一

次の文章の 線部について、漢字の読みをひらがなで、ひらがなは漢字に直して に正しく書きましょう。送りがなが必要なものは送りがながも書きましょう。

(※1) 吾輩は猫である。(ア) 名前はまだ無い。

どこで生まれたか、とんと(イ) 見当がつかぬ。何でも薄暗いじめ

じめた所で、ニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで初めて(ウ) 人間というものを見た。しかもあとで聞く

と、それは(※2) 書生という人間の中で一番(※4) 獰悪な種族であったそう。この書生というのは、時々われわれを捕まえて煮て食

う、という話である。しかし、その当時は何という考えもなかったから、別段おそろしいとも思わなかった。ただ、彼の掌に載せ

られてスーと持ち上げられた時、何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で(エ) すこし落ちついて書生の(オ) かおを見

たのが、いわゆる人間というもの見始めであろう。

この時、妙なものだと思っただけが今でも残っている。第一、毛をもつて(※5) 装飾されるべきは顔がたるつるして、まるで(※6) 薬缶だ。

『吾輩は猫である』夏目漱石。出題にあたり一部を書き改めたところがある。

(※1) 吾輩…おれさま、わし。いばつていて偉そうな言い方

(※2) 見当…だいたいの方向や、はっきりしていない事の予想

(※3) 書生…他人の家の世話になり、家事を手伝いながら勉強する人

(※4) 獰悪…性質が乱暴で荒っぽいこと。

(※5) 装飾する…飾ること。

(※6) 薬缶…お湯を沸かすための道具。もとは薬を煎じたこと
から「薬」の字を用いる。

(ア) 名前

なまえ

(イ) 見当

けんとう

(ウ) 人間

にんげん

(エ) すこし

少し

(オ) かお

顔

次の文章は川田さんが「吾輩は猫である」を読んで書いた感想文の下書きです。この文章中にはひらがなの表記の誤りが五つあります。すべて探して○で囲みましょう。

私の家に**わ**猫ねこがいます。名前はぐつ太といます。ぐつ

「わ」×
「は」○

太は私がれる前から、我が家わがに住んでいます。私は最

近、「ぐ**お**思おもっているのだろう。」と気

「お」×
「う」○

になってしまいうことがあす。「なぜ、同じ音楽ばかり何

度も繰くり返しかけている。「なぜそんなつまらないこ

とで親とケンカしたのか。」と、皮肉ひにくたつぷりの目で、見て

いるのかもしれない。私がこう**ゆ**うことを考えるように

なったのは、この夏休みに夏なつの『吾輩わがはいは猫である』

を読んだことがきっかけでし「ゆ」×
「い」○

話をするときには「ゆ」と発音するけれど、文で表すときは「い」と書くよ。作文を書くときはとくに注意しよう。

この小説の主人公は、自分のこと**お**「吾輩」と呼ぶ、名

前のない猫です。「吾輩」はもと猫でしたが、生きる

「お」×
「を」○

ためにさまよっていたところ、にたどり着き、その

家の主人である、英語教師の苦沙弥先生くしゃみやみに拾われます。こ

の家で「吾輩」は、先生や彼のもと**え**やっ

て来る個性豊かな人々を、「猫」の視点で観察し人間へ向けた皮肉た

「え」×
「へ」○

つぷりの言葉は厳きびしいけれど、思納得なっとくしてしまいます。